opusdei.org

## 16. イエスはいかな る言語を話しました か?

福音書の言語的背景に関する 研究によると、福音書の言語的 は、もとセム系の言語られ は、であるともしくは、恐られ はアラム語一で発音されてい す。

2016/09/28

1世紀には、イエスが生きた土地において、アラム語、ヘブライ語、ギ

リシャ語、ラテン語の4つの言語が 使われていたことが分かっていま す。

これらの言語の中で、最も使われていなかったのは公用語であるラテン語を使っていまでした。当時ラテン語を使っていたのは、ほぼ例外なくローマ帝国の行政官たちで、また、一部の教養人もラテン語の知識がありました。イエスがラテン語を勉強したとは考えにくく、日常の会話や説教にも使用したとは思えません。

ギリシャ語に関しては、イエスが 時々使っていたとしても驚くに値ラ ないでしょう。なぜなら、ガこの農民や職人の多くがこがでしまり、 を知っており、少なもも上でものまる を知は単純な商業活動を行う数をおいる 語は単シャ系の住民が多数に、ギリシャまる 周辺の諸都市で働くために、ギリシなな 基礎知識だったからです。いまし た。エルサレムの住民の8~15パーセントがギリシャ語を話していたられています。しかしながらてギリシャ語を使ってがらいまれてが時にギリシャはも見出さではくいるではくいきませんが、それするともできません。たとえばいきません。ということはありうることです。

一方、福音書の中で繰り返し言及されているイエスのシナゴーグにおける説教や、ファリサイ人との聖書を 巡る議論の記述から、イエスはヘブライ語の知識があり、時々それを 使っていたという可能性は十分に考えられることです。

しかしながら、イエスはヘブライ語を知っており時にはそれを使っていましたが、日常の会話や説教においては、通常、アラム語を話していたと思われます。というのもガリラヤ

地方のユダヤ人は、日常生活でアラ ム語を話していたからです。実際、 ギリシャ語の福音書の所々で、イエ スが口にした言葉や文章がアラム語 のままになっています。それらは、 「タリタ、クム」(マルコ5, 41)、 「コルバン」(マルコ7,11)、 「エッファタ」(マルコ7,34)、 「ゲエナ」(マルコ9,43)、「アッ バ」 (マルコ14,36) 「エロイ、エ ロイ、レマ、サバクタニー(マルコ 15.34)、他にも話し相手の言葉と して、「ラッブニ」(マルコ10, 51) などです。

福音書の言語的背景に関する研究に よると、福音書の文体は、もともと セム系の言語ーへブライ語もしく は、恐らくはアラム語ーで発音され たものであると指摘されています。

福音書の中で用いられているギリシャ語は、アラム語を母体とした特殊な構成になっています。そして、

福音書のイエスの言葉をアラム語に翻訳すると、その力強さはより明瞭になり、当時のギリシャ語にはなれアラム語特有の言葉遣いも見出されるのです。さらに、福音書をセム系の言語に翻訳すると、ギリシャ語では表現できない言葉遊びも見出すことができるのです。

参考書: Joseph A. FITZMYER, «The Languages of Palestine in the First Century A. D.»: Catholic Biblical Quartely 32 (1970) 501-531; Stanley E. PORTER, «Jesus and the Use of Greek in Galilee» en Bruce CHILTON - Craig A. EVANS (ed.), Studying the Historical Jesus. Evaluation of the State of Current Research (Brill, Leiden – New York - Köln 1994) 123-154; Pinchas LAPIDE, «Insights from Qumran

into the Languages of Jesus»:
Revue de Qumran 8, 4 (n. 32)
(1975) 483-501; Chaim RABIN,
«Hebrew and Aramaic in the First
Century» en Shemuel SAFRAI –
Menahem STERN (ed.), The Jewish
people in the first century:
historical geography, political
history, social, cultural and religious
life and institutions (Van Gorcum,
Assen - Amsterdam 1976)
1007-1039; Francisco VARO, Rabí
Jesús.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-16/ (2025/11/28)